
『と』 『り』 『た』 『め』 『く』

くぼた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『と』『り』『た』『め』『く』

【コード】

N70570

【作者名】

くぼた

【あらすじ】

ひさびさに怖い話を！というかぐろい話？ 閲覧注意

(前書き)

話の構成に凝っているわけでもないグロイ作品です。

前に書いた『あ』『く』『は』『き』と比べると随分てきとうな作りです。

ひどいなあって感じます。

無駄だと諦めるわけにはいかないだろうよ、いかにも窮地って感じだけだ。

目の前にある暗号文、というか暗号文ではないか、暗号、と言っべきだな。

『と』『り』『た』『め』『く』

壁に書かれているこの文字は、以前にこの部屋に閉じ込められていた人間が残してくれたヒントか何かなのだろうか。それとも俺をこの部屋に閉じ込めた犯人か何かが書き残した代物なのか。それはわからないが、俺に与えられているヒントはこれくらいのものだと思われる。これはヒントだろうどうみても。それっぽい雰囲気出してる。まあいい、とにかく、時間は残り少ない。後、十分でこの部屋は、爆発、はしないが、毒が溢れる予定らしい。

予定ということはどういうことかというところ、部屋の中央にはテーブルが置かれているのだが、丸テーブルで白色でクリーンな感じなんだけど黒の封筒がそこに置かれていたってわけ。

で、開いてみたらびっくり。

「後、十分後にはあなたは呪われたこの部屋で、死にます。毒殺ですひひひ」

と書かれているではないか。血で書いたようなそれはか細い文字で何故か女性を連想させられたがどうということなのだろうか。ま、女性を連想させるってことは犯人は男性じゃあるまいか。ま、脱出するのが今は優先だから、犯人が誰かなんて今はどうでもいいことだ。俺、悪人だから心当たり在り過ぎて誰が犯人なのか見当がつかないし。ふへへ。

さて、とにかく確かなのはヒントを完全に暴かなければ部屋からは抜け出ることが出来ないということなのだろうが。ま、ヒントが自体がブラフってこともあるかもしれないが、それはさすがに無い

よな。

『とりになっていくあなたに』

おっとびっくり。壁に書かれていた『と』という文字がいきなり文章に変わったではないか。何かの前触れも無しとは、人を驚かせるのが好きだな、この壁は。

『とりになっていくあなたに』

『り』

『た』

『め』

『く』

ん。さすがにこれでは何も解決できないし、とりになっていくあなたなんていわれるだなんて私は実に悲しい。人間のままでいたかったよ。何で鳥にならなくちゃいかんの？

部屋にヒントが無いものか、ということでも部屋について探ることにしよう。

天井に、これ明らかに怪しいんだけどスプリンクラーっぽい形をしたなんか変なの。色がシビリアンって感じで非常に緑。だから気持ち悪いんだけど、その上に『死』って文字がたくさん赤で装飾されてるわけだから、スプリンクラーなわけが無い。いや、万が一にでもスプリンクラーだとしてもおそらくここから発されるのは綺麗な水とかじゃないだろう。恐らく、ここから発される何かは俺を十分後に死へと誘うに違いない。そうならないように、ヒントを活用して部屋から抜け出さなくてはならないんだ。

『とりになっていくあなたに』

『りんごのこかんをさしあげる』

『た』

『め』

『く』

え。って思った。林檎の股間になるんすか？ っで感じでおもわず苦笑いみたいな顔つきになってしまった。だが、その後、冗談こ

とでない事態が生じた。

尿道に何か熱いものが入り込んだような感覚の後に、それが膨張する感じがすぐさま広がった。尿道にだけ広がったその熱が膀胱にも染み渡り、途端に俺のピーはピーだったけれども問題だったのは俺はあせって部屋に取り付けられてる鏡の前に立ち、自分のそれをズボンを下げてチェックしたのだけれど、どうしたものでしょう、膀胱が林檎になってた。真ん丸い、小ぶりな林檎が二つ、俺の膀胱としてぶら下がっていた。

ぞつと背筋が凍りつく感じに押しやられながら、俺は鏡に映っている床を見て、さらに驚愕した。なぜならば、鳥の羽が何枚か落ちていたのである。真っ黒な羽だよ。一枚ではなく五枚くらいは落ちてた。

焦って上着も脱いだ。全裸になった状態で鏡に背を向けると、どうしたものだろう、背中に羽が生えてた。カラスのような漆黒の羽がまだ小振りな感じだけど、生えてたよ。

膀胱に林檎を二つぶらさげ、背中にカラスの羽を生やし、全裸。俺は、その時見事なほどに異端だったし世間に適応できないことが明らかだったから俺に復讐したいやつはある意味ではもう復讐を達成してるくらいだと思う。こんな状態では生きていても仕方が無いから、むしろ、殺してくれるならありがたい。

そう、諦めることができるくらい、俺は絶望的な姿だった。自然と涙がもう数滴流れていたりする。なさけなさすぎて。自分のみじめな姿が。

俺は床にドサリと座って、もうヒントのことなんてどうでもいいや、と思った。

だから目を閉じて、残りの数分間を瞑想に費やそうと思った。過去についていろいろと思ひ返し、あれこれと感慨深く陥った状態で天井のスプリンクラーから出される毒か何かでパツタリと殺されたいと願っているよ、俺は。そして目を瞑った。

それから一分間は経ったころだろうか。

なる。ていうか、そもそもこの文字は何で壁に浮かび上がってくるんだ。誰の超人的な力なんだよ。幽霊だともいうのか。じゃあ、黒封筒を書いたのも幽霊？　じゃあ、何、今もそいつは俺には見えないが背後に突っ立っていたりするのか？　そして俺に次は何をしてやるのか、なんて企んでいるのか？　なんの恨みだかは知らないが、ひどいじゃないか。こんな膀胱を虫食い林檎にされて鳥の羽を生やされた哀れな俺に、さらに何をしようというのだ。文字はまだ二つも残っているんだぞ。まあ、膀胱に関してはむずむずするだけで痛みがすぐにひいたからもう許してあげてもいいけど。幽霊、でてこいや。

俺は全てに嫌気が差したので置かれていた純白のソファに腰を下ろした。そして自分が全裸の状態だったことを思い出して、全裸の状態でもソファに座っている自分の滑稽さにさらに嫌気が差したのもう頭が狂いたいと願った。そんなことを願っている俺の視界に、次の文字が浮かび上がってkあ。

『とりになったあなたに』

『りんごのこかんをさしあげる』

『たべられてもうかんきのひめいをあげるあなたは』

『めだまをくりぬかれていたみではつきようする』

『く』

いあ。そう思った俺の視界に真っ黒な何かが覆いかぶさった。何がどうなったのか知る隙間も与えてもらわない内に、ふたたび激痛が走って俺はソファから立ち上がり全身が自然と痙攣してしまっ苦しみに耐えられることも無く、叫び声をあげた。虫だ、とわかったときにはもう目玉は使い物にならなくなっていて視界が視界が視界が視界が無い。

笑顔が大切それ以上に大切なのはもつと大切なのはなにかといえは笑顔が大切だけどやっぱり苦痛ばかりが頭をよぎってるああもうだめだ誰かああ死ぬ発狂するああと何分だろうもうだめだいやだいやだこれ熱い熱い熱い熱いもう十分が経ったのか何これ視

界がないからなにもかもがわからないしもういやだ殺してくれなんて苦しい溶けてる溶けてるからだ溶けてるそこらじゅうが溶けてるよ助けて誰か誰か助けてもうい……………

「うぎゃあああああああああああああああああああああああああああああ
あああ」

スプリングラーから発される真つ黒な液体によって男の体からは蒸気みたいなものが噴き出し、そして驚くべきことに男の全身が溶け始めた。頭の髪の毛は抜け落ち、虫に食べられて既に穴ぼこになっていた目玉の位置に入り込む黒い水は男を内部から焼いた。皮は全て剥がれ、背中から生えていた羽ももげるようにして地面に転がった。林檎もぼとり、ぼとりと落ちてすぐに溶けてなくなり、皮の剥げた男からは次第に白いものが見えるようになったが、それは骨である。すでに筋肉は溶けて零れ落ちていたし内臓も同様である。男は最後に脳味噌が溶けたが、脳味噌は最後に「誰が犯人だったのだ」と思いながら朽ちていった。

男が見ることはなかった最後の文字『く』は、男が全て溶けてなくなつた頃、文章として浮かび上がった。

『くぼたです。くるしんでいただけでしたか』

(後書き)

はい。実は作者名をわざわざぼたにしたのには理由があったのです。

神視点っていうね。(違うかな)

えー。実に恐ろしい話ですね。ただ文章が適當すぎるので怖さはあまりないかもですね。グロさというか残酷さが濃いですね。嫌な作品です。ま、こつこつこの面白いけど。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7057o/>

『と』『り』『た』『め』『く』

2011年11月13日03時45分発行